

令和7年度第2回三重県看護職員確保対策検討会 議事概要

日 時：令和8年3月10日（火）18時30分～20時40分

場 所：Zoomを用いたWeb会議及び吉田山会館第206会議室

出席者：堀委員（会長）、浅生委員、片田委員、今野委員、
谷委員、中谷委員、中村委員、服部委員、樋浦委員、
廣野委員、福本委員、松本委員

1 報告事項

- (1) 看護職員従事状況、看護職の求職・求人・就職状況・・・資料1
- (2) 看護補助者の確保に係る取組状況・・・資料2
- (3) 認定看護師の活動状況・・・資料3
- (4) 令和8年度の看護職員確保対策の取組の方向性・・・資料4

2 協議事項

- (1) 領域別・地域別の看護職員の不足解消に向けて

【意見】

- 求職就職率の高い自治体における看護職員確保対策の取組状況を把握してはどうか。
- 夜勤の負担や子育てを理由に退職する方は少なくない。病院は看護職員の確保に苦慮しており、何とか対策を講じていく必要がある。
- 縁もゆかりもない地域に就職する方はほぼいない。県内看護系大学での地域枠制度の導入や、定員の拡充について検討してはどうか。
- 就職先として実習施設を選択する学生が少なくない。看護職員の確保に苦慮している施設が、看護学生の実習を積極的に受け入れていくことも大切。
- ナースセンターでは、その人に合ったマッチングを丁寧に行うため、離職せず働き続ける方が多いという成果は出ている。
- ナースセンターの求人・求職の登録情報を求人施設・求職者がタイムリーに把握できるようなシステムを構築してはどうか。迅速性が極めて重要。
- 看護教員に県内での職務経験があると、学生に対して効果的に就職指導を行えるかもしれない。

(2) 看護補助者の確保に向けて

【意見】

- 県内病院で外国人の看護補助者を積極的に活用しているところもある。人材確保にあたり、外国人コミュニティの口コミのみならず、システマティックに仕組みを構築できないものか。
- 意欲が高く体力のある元気高齢者は多い。看護補助者の人材確保に向けて、シルバー人材センターや老人クラブを試行的に活用してみてもどうか。
- 病院で看護学生が看護補助者として働くことは、双方にとってメリットが大きい。今後、看護師等学校養成所とも連携していけるとよい。
- 定年退職後の就業先として、企業に対してもアプローチしてはどうか。
- 広く啓発を行うというより、コミュニティを絞り込みアプローチしていく方が、実質的な効果を得られやすいかもしれない。
- 外国人材の活用にあたっては、やさしい日本語を導入していくことも大切。

(3) 認定看護師の地域活動の推進に向けて

【意見】

- 認定看護師については総数確保のほか、現在働いている人たちが自施設内外でやりがいを持って就労し続けていくことも大切。地域医療構想区域ごとに認定看護師が連携し活動できるよう支援していくのはどうか。
- 地域活動に対しどれくらいの人にマンパワーがあるのか。
- どのような活動事例があるのか実態を把握し整理することが必要であると思う。
- 認定看護師の分野は多岐にわたる。病院と地域で活かせる分野を整理し、分野ごとに地域でどのような活動を行っているか明らかにできるとよいのではないか。

(4) その他

【意見】

- 看護職員の業務を軽減し、本来の業務に携わり活躍できるような労働環境を作っていくことも必要である。ロボットやA Iの活用など看護職員の業務支援を検討していく時代になっていると思う。

以上